

<様式>

| | | | |
|---|--|------|-------|
| 学 校 名 | 山形市立東沢小学校 山形市防原町4-15 Tel. 629-2119 FAX629-2907 | 校 長 | 横山 尚久 |
| | | 研究主任 | 宗片 典子 |
| 研 究 主 題 | 主体的に考え、学び合う子どもの育成 ～他者とかがわりながら 自ら学ぶ授業をめざして～ | | |
| 研 究 主 題 設 定 の 理 由 | <p>本校は、「誇りと夢をもち 未来をひらく たくましい『雁戸の子』を育てる」ことを学校教育目標としている。学習においては、課題に真面目に取り組む姿勢や態度を活かしながら、自ら進んで課題を見付けたり、自分の考えを分かりやすく表現したり、友達と協働しながら学んだり、学んだことを活用したりする力を児童に付けていきたいと考え、「主体的に考え、学び合う子どもの育成」を主題に研究を積み上げてきた。</p> <p>昨年度までの3年間、「みんなでつなぐ」を授業改善の視点にして、「自分の考えや気持ちを伝え合い、交流活動を通して、学びを深めていくこと」ができる授業を目指し、研究を進めてきた。部会研や全体研の話し合いを通して、各々の教師が様々な教科について学び合い、授業力を高めるように努めてきた結果、交流場面のあり方やつながり学ぶ姿について見方・考え方を広げ、新たな教材開発に取り組む等の成果がみられた一方、子ども自身が自分の考えを伝えたいと思うような学習課題や学習活動を設定することや、子ども達の気付きや考えから学びを引き出せるようにするための教師のコーディネート力が不十分であることが明らかになった。また、子ども達が自分の考えや思いを相手に伝えたいという気持ちや伝えるための技能を高めていく必要があることも改めて実感している。更に、研究の中で自尊感情、自己有用感の育成を図っていきたい。</p> <p>そこで、今年度も引き続き「主体的に考え、学び合う子どもの育成」を研究主題とし、「かがわりながら自ら学ぶ」を授業改善の視点にして、教師の授業力を高めつつ、子ども達の「相手の考えを認め、自分の思いを表現する双方向の力」を高めていくことを目指し、授業研究を進めることにした。</p> | | |
| 研 究 の 目 標 | 子ども達が自分の考えや思いを伝え合いながら自己肯定感を育み学ぶ姿をイメージし、何とどのように「かがわる」ことで学びが連続し、探究と理解が進み、子ども一人一人の深い学びの姿に迫ることができるか、有効な手立てを日々の授業で追究すると共に、児童及び教師の「振り返り」をもとに、支援が適切であったか検証し、「主体的に考え、学び合う子どもの育成」を目指す。 | | |

◎目指す子どもの姿

- 進んで課題を見つけ、粘り強く取り組む子ども
- 他者とかかわりながら、考えを深め合える子ども
- 自らの学びを実感し楽しみながら学び、学びをくらしに活かす子ども

これらの姿に迫るためのキーワードを「他とかかわる授業」として、気付きや思いを互いに伝え合うことで、一人一人の考えを広めたり深めたりして、学ぶ楽しさを実感させ主体的な学習者を育成していくようにする。「他とかかわる授業」の実現を目指して、以下の内容で研究を進める。

(1) 子ども達の自己肯定感を高め、深い学びのある「他とかかわる授業」に迫るため、教師の支援のあり方を追究する。

① 研究で目指す子どもの姿や、かかわり学ぶための「認め合う力」のイメージを共有し、発達段階に応じた系統的な姿をまとめていく。

② 教師の指導と支援の手立ての視点を整理して、実践を積み重ねる。

【例】<視点1>学習課題の工夫<視点2>学習場面の工夫<視点3>まとめと振り返りの工夫
今年度の視点は、授業者がこだわりをもって発信したいものを設定する。

③ 子ども達の意見をコーディネートするための教師の支援のあり方を探る。

- ・どのような手立てによって、子どもたちの学びがつながり、学びが深まったか。
- ・自分の意見をもたせる手立て、子どもの意見の予想と分類や整理、つぶやきを拾い上げる目、教師のでどころ・指名計画、様々な展開への対応等はどうであったか。

④ 子ども達の、自分の思いや考えを伝える力を高めるため教師の支援・手立てを明らかにして積み上げていく。

①～④について、単元や1単位時間の授業を積み重ね、その記録を蓄積し、授業に活用したり、授業を改善したりしていく。

(2) 授業実践や事後研究会、各種研修会において、言語活動を通して深く学ぶ姿とそのための手立てが見られたかどうかについて協議し、授業の中で子どもを見取る力を付けていく。

- ・事前研究の充実を図り、共通の視点をもって授業研究会に臨めるようにする。
- ・外部講師を招聘し、授業づくりや授業実践についての学びを深め、今日的な教育的課題の解決に向けた取り組みについての研修を通して、自己の見識を広めたり深めたりする。

(3) 日常の授業実践を積み重ね、子どもたちの成長や変容、教師の指導と支援あり方、研究の成果や課題について共有化し、改善を図る。

(1) 授業研究

- ・全担任が1研究授業を行う。
- ・学級の児童の実態・付けたい力を考慮して、授業教科・単元を決定する。
- ・事前研は部会ごととし、構想段階から授業検討を行う。
- ・大研には指導主事を要請し、指導を仰ぎ、日常の実践に活かす。

(2) 研究全体会

- ・日常の授業について、目指す子どもの姿に迫るための指導の手立てについて、提案、検証、協議等を行い、学校研究への共通理解を図る。（「研究の計画」参照）

(3) 先進校視察

- ・県内外の先進校を視察する。事後に報告研修会を行い、授業改善に活かす。

(4) 「かがやく瞳」研究だよりの発行

- ・授業研究会後2週間をめどに授業者が作成する。授業後の話し合いを受け、教師の手立てと子どもの学びの姿についてまとめ、成果と課題を明確にする。
- ・その後の日常の授業について、成果を共有し、課題に対してどのような工夫がなされ、子どもの学びの姿がどのように変化したかを追加してまとめる。

研究
の
内
容

研究
の
方
法

研究の計画

| 月 | 研究会の内容 | 実務 |
|----|--|---|
| 4 | 全体会 ・今年度の構想・重点・研究の進め方 | <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 児童の実態把握・児童理解に努め、目指す子どもの姿を探る。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 教科・単元を決定する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 各教科で、様々な工夫の仕方を実践し、自己と児童のツールの増やす。 </div> </div> |
| 5 | ・授業研究会の日程・指導案形式提案 研究授業日程及び教科決定 | |
| 6 | ／21 研究授業①事前研究会 | |
| 7 | ／12 授業研究会①・5年（外国語）大研 ／26 職員会議 ・研究の反省・2学期以降の確認 | <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 授業での実践 ・指導案作成・板書計画 ・レディネス調整・教室掲示 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 各自、自身の成果と課題をまとめる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 日常の活動・授業の中で「自己肯定感を育む力」を意識した指導を積み上げていく。 </div> </div> |
| 8 | 23 研究会 事前研究会 | |
| 9 | ／6 授業研究会② ・こまくさ1組AB（自立活動） ／14 授業研究会③・6年（算数） | |
| 10 | | |
| 11 | ／15 授業研究会④・2年（生活）大研 ／30 授業研究会⑤・4年（道徳）大研 | <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 研究のまとめについて提案 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 個人まとめ </div> </div> |
| 12 | ／13 授業研究会⑦・こまくさ2組（算数） | |
| 1 | ／19 授業研究会⑧・3年（算数） ／23 授業研究会⑨・1年（国語） 全体会 ・研究の成果と課題（個人） | |
| 2 | ／2 全体会 ・研究の成果と課題（全体） ・来年度の研究の方向性について | |
| 3 | ・研究実践の引き継ぎ | |